

平成30年度 下水道維持管理業務取組発表会  
発表概要

所属 矢部川浄化センター
発表タイトル 設備情報管理システム入力用ハンディ端末代替品開発
取組の目的 保守点検入力用のハンディ端末は、整備後10年以上経過し、老朽化による故障で次々と使用不可となった。このため様々な手段で対応していたが、平成30年当初には1台しか使用できない状況となった。 当該端末の調達を図りたいが、既に当該機器は生産終了。メーカーへ新たに開発を依頼すると、多大な支出を要し、黒字化を目指す当センターにとって大きな課題であった。 このため、安価で拡張性の高い市販のハンディ端末（タブレット）により、既設品を代替することとした。
取組内容 ・市販のハンディ端末の選定及び調達を行った。 ・保守点検表を作成し、運用を開始した。 ・利便性を高めるため、適宜カスタマイズを実施した。
取組成果・効果 市販品の選定にあたっては、表計算ソフト（Microsoft Excel）が使用可能であること。また、使いやすさを向上させるため、当該ソフト上で動くVBAの活用が不可欠であることから、それらが動作するWindowsOSのタブレットとした。 保守点検表の作成は維持管理業者と連携し、基本となる表を作成。閲覧画面は点検箇所別に、分かりやすく区分した。タッチパネル方式での入力であることから、視認性や入力時の操作性を向上させるため、VBAを活用し別途入力専用の画面をポップさせるなどの工夫を行い、平成30年8月から運用を開始。 その後、現場からの改善要望等により、データ入力アシストを行うための過去データの表示、入力ミス時の警告表示や、音声による注意喚起機能を付加するなどの改良を行う。 これらの成果により、旧端末に比べ格段に使い勝手が向上し、引き続き円滑に保守点検を行うことが可能となった。 （なお、現在はカメラや音声入力、USBを利用した温度測定・内視鏡カメラなどの機能付加の活用について模索しているところである。）